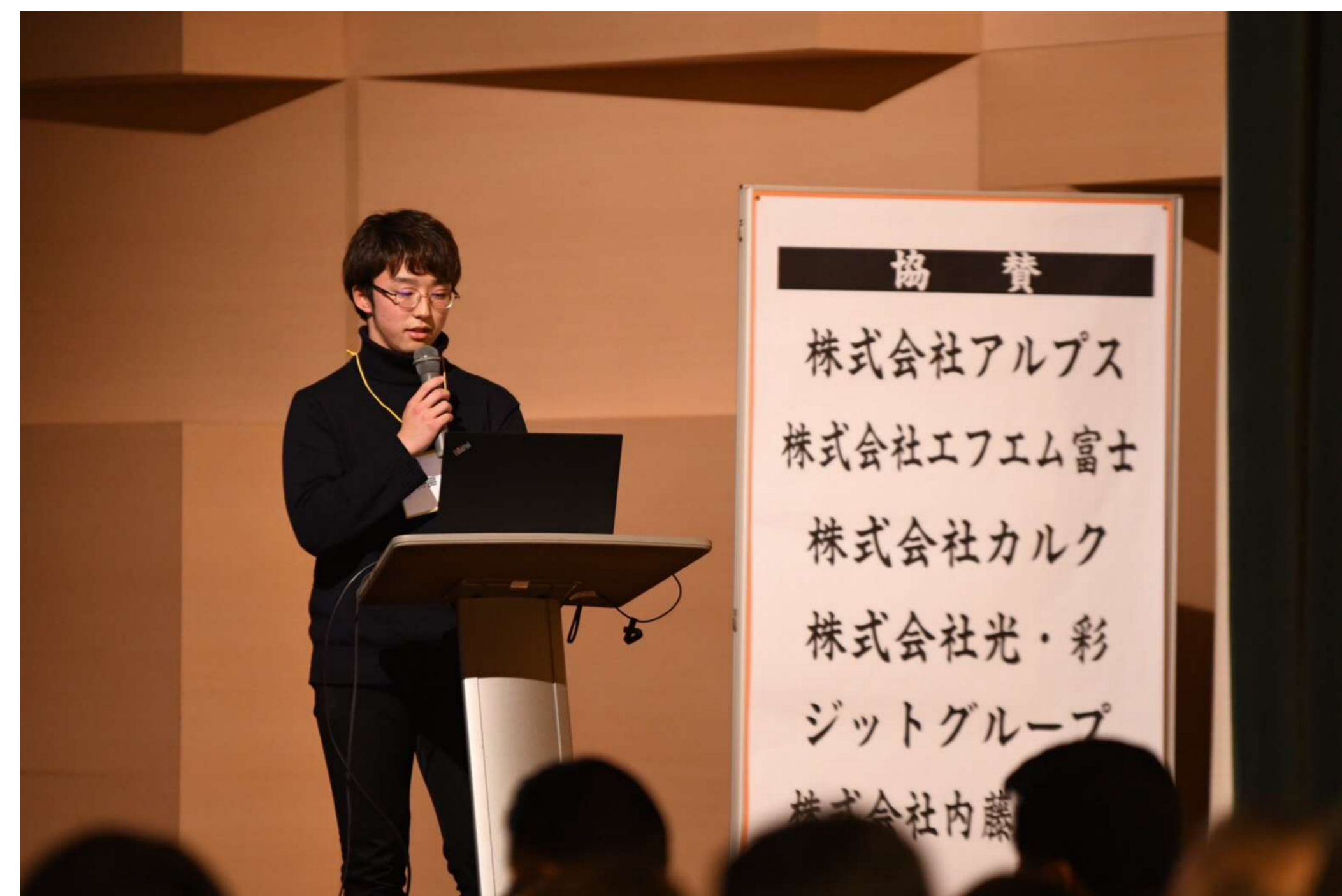


10 エリア放送を活用したコンテンツ作成の実践

発表者：木村 龍生（工学部 土木環境工学科 1年）
 ：山内 勇人（工学部 土木環境工学科 1年）
 ：荒尾 佳奈（生命環境学部 地域社会システム学科 1年）
 担当教員：郷 健太郎（工学域・コンピュータ理工学）
 ：井坂 健一郎（教育学域・芸術文化学）

取組みの概要

エリア放送を利用したコンテンツの作成を行った。今回は、地域課題の発見と解決の取組みとして、地域を盛り上げるイベントの提案を行い、そのイベントをプレゼンするコンテンツを作成した。さらに、コンテンツ制作の一環として、大学内外で取材活動を行った。イベント案とコンテンツをもとに、イベント「リアルファンディング in やまなし」へ参加した。



課題解決の方法

1. 主題の設定

主題を設定する段階で、ブレインストーミングを行い、でてきたアイデアから2つの候補にしぼった。

- 山梨県でのドローン産業の取材
 - イベント「リアルファンディング in やまなし」へ参加
- 前者は、学生が実際に企業を訪れて講習を受け、体験記風にまとめることを想定したものである。
- 後者は、地域振興のイベントに参加することで、主体的に貢献することを目指したものである。体験記風の表現は後者でも可能であることから、最終的に後者を選択した。

2. 具体的なイベントの提案

地域課題解決科目参加メンバーでさらに意見交換を行って、以下のような特徴を盛り込むイベントの着想を得た。

- 地場産業であるワインを広報できること
- 甲府駅周辺の空間を有効活用できること
- 地域の人や観光客が参加できること
- 五感を使って体感できること
- 歴史を学べること

このような条件から、川中島の合戦をモチーフにした、水鉄砲によるイベントを考えた。特に水の代わりにワイン（の香りのする水）を使うことにした。

3. コンテンツの検討

上記イベントでは「学生によるアイデア・パフォーマンス披露」が課されている。そこで、プレゼンをアイデア説明とコンテンツ放映に分けることにした。後者用にショートビデオをコンテンツとして作成した。

4. 取材と編集

提案するイベントへの参加の気持ちを高めることを重視した、力強いシーンを組み合わせることにした。部活やサークルへの協力をお願いした。また、武田神社周辺の映像を取り入れた。

成果

完成したコンテンツは2020年2月7日にジット甲府プラザにて開催されたイベント「リアルファンディング in やまなし」にて実際に発表した。発表後には、専門家の方からシーンの表現などの技術的なアドバイスをいただくことができた。

また、当日のプレゼンの様子は別途、取材班が撮影を行った。コンテンツ制作の活動を通して、制作者一同、多くの学びを得ることができた。

まとめ

「リアルファンディング in やまなし」へ参加も兼ねて、地域課題の発見と解決法の提案を行った。プレゼン当日の様子などをまとめて、山梨大学甲府キャンパスでも放送することも検討中である。